私の実家は、長野県の野辺山という所です。野辺山は標高が高い高原地帯です。空気が澄んでいて、水がおいしくて、夜は綺麗な星空で国立天文台の観測所があります。そして、立派な八ヶ岳があります。そんな野辺山では、高原野菜と酪農が盛んに行われています。私の両親も農業をしています。我が家の農場は八ヶ岳の麓にあり、牧草地３ha、畑５haの広さです。ホルスタイン23頭を飼育しているのと、人の体や環境に安全な無農薬でレタスやキャベツをはじめ沢山の種類の高原野菜を作り出荷しています。私の両親は、安全な食品を扱っている会社といくつか提携しています。その中に愛農流通センターもあり、昔から愛農と関わりがありました。

　もともとは、私の祖父と祖母が1957年に野辺山に来て開拓して入植した土地です。祖父、祖母が開拓してくれていなかったら私は農業とは全く別の道に進んでいたと思います。又、

愛農にも出会えていませんでした。感謝したいです。そして私の父に引き継がれました。私はなぜ父がこだわって野菜を作っているのか気になりました。それを父に聞くとこう言っていました。父の高校時代、独立学園時代に読んだ本、レイチェル・カーソン著の「沈黙の春」で農薬の恐ろしさを知り、農薬がいかに人間の健康や自然を害し、破壊するかを知ったそうです。その頃の祖父は少しだけ農薬を使っていて、父の強い思いから無農薬で野菜を作るようになったのです。

　しかし、無農薬は簡単な事ではないです。私もその大変さを小さい頃から自分の目で見て体験してきたので重々知っています。例えば、雨の多い時に病気になり易くその事に対して

出来る対策が余りありません。また、夏場は特に忙しく、仕事が間に合わなくなり、雑草が沢山生えてしまい、さらに仕事が遅れてしまいます。私も、小さい頃からよく除草をやってきました。普通は涼しい野辺山もこの時はとても暑く感じられます。雑草はきりがないほど沢山生えています。ひどい時は私の身長より高い時もありました。長時間、腰を曲げて暑い中続けないといけないので本当に大変です。疲れたからといってやめてしまうと、野菜が草に負けてしまうので除草は絶対に欠かせません。時期によってアオムシなどの害虫が大発生してしまうなどの現状があります。父はいつも葉の色や艶などを観察し、作物が健康に育っているか見守っています。

野菜の出荷は７月から10月の間まで毎日あり、多い時で１種類の野菜ごとに100ケースほど出荷します。収穫した野菜から良いものを選ぶので時間がかかります。虫食いのひどいものがあっても牛にあげたり、家族で沢山野菜を食べられたりするので、牛も私たちも幸せです。朝は5時前に起き午前中の間に収穫と出荷の準備、搾乳を終わらせます。父はお昼ご飯を食べる暇もなくずっと仕事をしています。午後は主に除草をします。毎日沢山の苦労がありますが、消費者の皆さんから毎年注文を頂き、「今年はいつ頃から出荷してもらえますか？」などと電話をいただきます。そんな消費者の皆さんに一生懸命作った野菜をようやく届けられる喜びを感じるそうです。消費者さんからは、「こだわって作った野菜は本物の味がしておいしい」と言って下さいます。父と母はそれを聞き、たまっている疲れが吹き飛ぶほど元気が出て、次も頑張れると言っていました。安全で美味しいからこそ、毎年注文していただけることがなによりの証明だと思います。無農薬で作ることは本当に大変なことです。それでも前を向き、毎年こだわって野菜を作る両親がかっこ良くて尊敬しています。

野辺山は田舎で静かな所ですが、沢山の生き物で賑わっています。我が家の畑には愛農と同じようにクモやテントウムシなどの益虫が見られます。そして、アオムシを食べてくれる野鳥も来てくれます。また、有機でこだわって農業をしている人との交流もあります。思いを同じくする人と沢山出会え、分かち合えるのが嬉しいと父は言います。大変な事も沢山あるけど、その分良いこともあると気づきました。

　自分の育った野辺山を思い出すことで、無農薬の大変さや良さ、それ以上に野辺山の素晴らしさに気づく事ができました。これから私は、有機農業も含めて色々な農業の良さ、やり方を学んでいきたいです。農業のことはもちろんですが、私は毎日新聞を読み、今世の中で起こっている事を無関心でなく、向き合い自分なりの意見を持ちたいです。又、愛農での沢山の方との出会いを大切にし、自分の世界を広げ、色々経験したいです。

それを将来野辺山に持ち帰り、自分の夢を育んでいきたいです。